

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2020.10.16.Fri No.7

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

〈県内3病院の連携・統合について〉

知事“（自治体誘致合戦）狙い通り”

村井県知事記者会見（2020年10月5日）

◆Q／先月末、名取市長や県南の首長が知事に要望に来たと思うが、非公開ではあったが、知事はどのような回答をされたのか伺う。

■村井知事／これは黒川郡のときと同じ回答です。まだ具体的に何も決まっておりません。これから宮城県と県の病院機構と日赤と労災病院を抱える機構と、そして東北大学と5者で具体的な統合なのか、連携なのかということをお話しします。その際に、頂きました要望書については、こういう要望が出ていますということをお示しをした上で議論を進めます。現時点においては、それ以上のことは何も申し上げることはできません。そういう回答でございました。

◆Q／具体的な枠組みが決まっていない中で、いろいろな自治体で多角的な誘致、要望があることに對してはどうお考えか。

■村井知事／これは非常にいいことだと思います。そういう狙いもあって、われわれ打合せが始まった段階で早めに皆さんに公表して、そして各自治体も関心のあるところは積極的に関与していただきたいという思いで公表しておりますので、狙いどおりだと受け止めております。

◆Q／そうすると、今要望されているような富谷とか名取以外にも、要望があれば意見は聞くということが基本か。

■村井知事／当然、はい。そして、5者会議には必ず、頂いた資料はそのままお出しして、お聞きした内容をそのままお伝えをして、そして皆さんの意見を聞いて、あとは取りまとめていくということになります。



宮城県地域医療構想調整会議開催されます！
～再検証対象医療機関における検討状況について等～

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/iryuu/kousou-ichouseikaigi-r2.html>

●大崎・栗原医療圏

11/6 (金) 17:30～ 県栗原合同庁舎2階第4会議室

●石巻・登米・気仙沼医療圏

11/11 (水) 17:30～ 県登米合同庁舎5階 501大会議室

●仙台医療圏

11/12 (木) 17:30～ 宮城県庁9階 第一会議室

■ 河北新報社説 ■ (2020年10月09日金曜日)

宮城3病院連携・統合／地域に影響 功罪の吟味を

宮城県内にある県立がんセンター（名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区台原）、仙台赤十字病院（太白区八木山本町）の連携・統合に向けた協議の行方に注目が集まっている。

すでに統合移転を想定し、富谷市と名取市などによる誘致合戦、存続争いの様相を見せている。

立地場所を巡る綱引きより、もっと大事なことがあるのではないか。

地元に根付いている病院が移転することになれば、かかりつけ患者の診察や救急搬送など、地域医療に及ぼす影響は計り知れない。

音頭を取る県は「がん医療を充実させ、総合的な機能を有する病院」を掲げる。一定の説得力を持つ一方で、失われるものも出てこよう。

医療政策に「百点満点」の答えはない。総病床数の減少などでサービスは低下しないか。なぜ、この組み合わせなのかなど、分からないこともたくさんある。

県は年内に方向性を出す。検討プロセスをできるだけ明らかにし、多くの知見を踏まえた上で判断すべきだ。

事の発端は、がんセンターを取り巻く状況にある。国民病に特化したと注目されたものの、近年は他の病院も手掛けるようになって、強みを失いつつある。

高齢のがん患者は体のあちらこちらに疾患を持つ。持病の腰痛、高血圧、腎臓病による人工透析など横断的に対応できる「総合病院化」を求める声も高まっていた。

2019年12月、東北大教授らによる「県立がんセンターのあり方検討会議」が提言をまとめ、「他の医療機関との連携・統合」を打ち出す。

東北大の助言を受け、県とがんセンターに労災と赤十字を加えた「5者協議」を始めたというのが、一連のいきさつである。

「がんセンター会議」は、経営面にも触れている。県の負担金が毎年20億円になると指摘し、「施設老朽化で将来的な移転、建て替えの検討が必要」としている。

労災と赤十字の建物も年数を経ている。病棟建設費などハード面の効率化、相乗り効果をにらみつつ、がん治療を中心とした医療の近代化を探っているように見える。

住民の通院や人の流れを変貌させるほどの案件である。経営面に気を取られ、本分を置き去りにしてはならない。予想される影響について意見交換の場を設けてほしい。

それにしても、仙台市はどうして反応しないのだろう。

県の所管だとしても、統合となれば、労災と赤十字の存立に関わる。基幹病院を一度動かしたら、戻すのは困難となる。

市は本年度中に、まちづくりの指針「新総合計画」を策定する。この問題を取り上げ、市民生活にどんな影響を及ぼすのかを議論し、県に意見すべきではないか。



宮城県立がんセンター（名取市）
ベット数：383床
職員数：392名



東北労災病院（仙台市青葉区）
ベット数：548床
職員数：820名



仙台赤十字病院（仙台市太白区）
ベット数：335床
職員数：603名